

## 前代未聞の形でオペラ上演!

2月6日、新型コロナウイルス感染防止策を講じてオペラ公演を行いました

当初は、昨年5月24日の**渋沢平九郎**の誕生日に合わせて開催予定でしたが、直前の3月になって感染拡大により会場の深谷市民文化会館(埼玉県深谷市)が使えなくなり、予定していた記者会見も中止、窮地に追い込まれてしまいました。

しかし、深谷市の多大なご協力で、あらためて2021年2月に延期して会場を用意して頂き、更に深谷市地域振興財団が自主事業とする、渋沢栄一関連六社協定でも取り上げる、市の渋沢栄一政策推進部も全面的バックアップを申し出て頂いたことで、大幅な延期となったものの新たな光が見え始めました。

このオペラは、NHK大河ドラマ「**青天を衝け**」の主人公**渋沢栄一**の養子となった**渋沢平九郎**の短い生涯を描いたものです。平九郎はいずれ大河ドラマにも出てくるようです。

オペラでは、農民の出から幕臣となり、戊辰戦争の流れであった**飯能戦争**に散った若き平九郎を中心に、幕末の動乱期を描いたものです。

### グループ分けし我慢の練習続ける!

マスク着用、体温測定、手指消毒、ディスタンスの保持、30分ごとの換気休憩、施設ごとの使用条件遵守、狭い場合はグループを分けての練習を続けました。



### 演出大幅に変更 模索の連続

このオペラは、新進気鋭の若手作曲家・**西下航平**さん初の書き下ろし作品です。脚本は、声楽家・詩人の**酒井清**さん。演出・合唱指導は指揮者**磯野隆一**さん。

舞台は全三幕、計32曲に及びます。序曲のわらべうたは地元の子どもたちに歌ってもらう予定で進めていましたが、コロナ禍を考慮し出演は断念しました。

長期間にわたる練習中断後に再開した時には合唱メンバーは半減、パートバランスも崩れ、厳しい状況でした。取りあえずは残ったメンバーで続け、演出も当初とはまるで変わってしまい、手探り状態の中で進められました。

合唱メンバーは、歌以外に演技の場面があり、人数の減少で何役もこなさねばならない状況となりました。ソリスト陣も病気やその他の理由で予定が変わる中、感染対策により舞台設定も大幅な変更を余儀なくされました。

### オケは舞台奥、歌い手からは指揮が見えない

舞台下手から見たオケ

右が客席方向



最大の難問は、ソーシャルディスタンスをとるとオケが舞台前のオケピットに収まらなくなってしまったこと。試行錯誤の末、オケを舞台の奥にさせることにしましたが、そうすると指揮者は歌い手の後ろに位置し見えません。やむなく舞台前面に指揮者を映し出すモニターを置き、それを見ながら歌うことになりましたが、モニターの位置などが最終的に決まったのは本番前日のリハーサルですから、その形での練習はほとんどできない状態で本番を迎えました。

モニターは液晶テレビでは、横方向から画面が見えないため横からでも見えるブラウン管テレビに急きょ変更しました。客席からの邪魔にならない位置を探すとどうしても左右に寄せねばならず、歌い手から遠くなったり、前に他の人が立つと見えなくなり戸惑いました。さらに本番も不織布マスク着用でした(-.-)

### オペラは総合芸術

ソリスト7人、合唱31人、オケ40人、役者8人、照明・音響・衣装・美術・道具・ヘアメイク各専門家、舞台監督の大所帯です。合唱の演奏会とは異なり、複雑で多岐にわたる業務が満載でした。無事終了できたのは関係者の皆さんの熱い思いと協力の賜物です。

詳しくは下記【歌劇 幕臣・渋沢平九郎】をご覧ください。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>